

動物の命 愛情注いで

2018. 9. 25 熊日朝刊

動物愛護週間(20〜26日)に合わせ、動物の命の大切さを学ぶイベントが24日、熊本市東区健康の市動植物園で開かれ、親子連れらでにぎわった。



愛護週間 親子で学ぶ 熊本市

大猫の首輪につける「迷子札」作りをする親子連れ

熊本市東区

た。

同園と獣医師会やボランティアなどでつくる市動物愛護推進協議会が開催。ワークショップやパネル展示、15歳以上の長寿犬猫の表彰やペットの相談会などがあった。

ペットと離れ離れになるのを防ぐ「迷子札」作りのコーナーでは、参加者が首輪に着けるプラスチック板(縦5センチ、横11センチ)に犬猫の名前や連絡先、イラストを描いていた。

2歳の犬を飼う秋田洋子さん(43)は「迷子になっても、自宅に戻って来てほしい」。長女の真穂さん(10)は愛犬の似顔絵を描き「上手にできた」と喜んでいった。

(木村恭士)



献花台に花を供える献眼者の遺族ら＝熊本市東区

角膜移植に協力 献眼者66人慰霊 熊本市

角膜移植に協力した献眼者の合同慰霊式が23日、熊本市東区健康の市動植物園であった。2013年9月の

角膜移植の普及と啓発活動を進める熊本ライオンズクラブ(前田美生会長)などが5年に1回開いており、今回は約80人が出席。前田会長らが献眼者に感謝の言葉を述べ、献花台に花を供えた。

遺族代表であいさつした美里町の本山公政さん(65)は1月に父泰喜さんを亡くし、「父は生前から献眼の意思を示していた。必要とする方々の役に立ち天国で喜んでいられる」と話した。

角膜移植の対象は病気が事故で視力に障害が残った人たち。主催者によると、県内は約130人が移植を待っている。動植物園内の慰霊碑に名前が刻まれた県内の献眼者は、これまで約570人。

(木村恭士)